

大鹿リニエンナーレ事件抗議声明

(<http://akaishimonitor.jp/opinion/>)

大鹿リニエンナーレ事件 声明

JR東海、大鹿村・大鹿村教育委員会一体の言論弾圧に抗議する

大鹿リニエンナーレ事件声明 (<http://akaishimonitor.jp/wp-content/uploads/2019/10/大鹿リニエンナーレ事件声明.docx>)

2019年10月9日、大鹿村内の郷土民俗資料館「ろくべん館」にある販売コーナーで『南アルプスの未来にリニアはいらない』(宗像充著、大鹿の十年先を変える会発行)が、大鹿村教育委員会の指示によって6月に販売コーナーごと撤去されたことが発覚しました。村教育委員会はこの事件の後、隣接する地質資料館「中央構造線博物館」の販売コーナーも含め、販売物の管理を教育委員会がすることにしたと言います。しかしこれは、公共施設における販売物の管理の問題ではなく、言論弾圧事件です。

JR東海はリニア新幹線建設工事を村内で進めています。ろくべん館も訪問した社員研修翌日の6月13日、JR東海大鹿分室の太田垣室長が直接館に足を運び、観光ツアーが予定されていることを理由に本を示して撤去を促しました。その後、大鹿村リニア対策室に問い合わせた管轄を聞き、大鹿村の島崎英三教育長が太田垣室長とともにろくべん館を訪問。翌日、島崎教育長は販売コーナーの撤去を指示しました。

販売コーナーは何年も前から設置されており、本の著者は単に置かせてもらえるからと、他の土産物同様、村内の作家として持ち込んだにすぎません。しかし、撤去を指示した教育委員会は、4カ月間何度も著者が教育委員会の窓口で顔を出しているのに、一切このことを知らせませんでした。

JR東海が問題としたのは、販売コーナーにリニアに異論を唱える本があることであって、販売コーナーがあることではありません。大鹿村のリニア対策室と教育委員会は、村政と村の教育行政はこれが検閲であることを隠すため、本撤去の要請がJR東海からなされたことを否定し、問

題を事務管理の問題に止めようとした。しかし太田垣室長は、その他の販売物ではなくこの本が問題であり、教育委員会に要請したことを認めています。JR東海と村、教育委員会一体のこの言論弾圧に、私たちは抗議します。

私たちは村の美しさだけを伝えるだけの、自然破壊隠しのJR東海ツアーなど頼んでいません。不愉快ならツアーは館を使わなければいいだけです。撤去して当然というJR東海の口出しは、村と教育委員会当局が味方をしてくれることを見越しての専横です。一営利企業が公共的事業の名のもとに、住民自治に介入したことに強く抗議します。

大鹿村は今、「リニアファシズム」とも呼べる言論弾圧、住民いじめが続出する異常事態です。

大鹿村は2019年4月から印刷機・コピー機の個人利用サービスを取りやめました。この際にも担当総務課は「村政への反対の印刷物を配布させていることへの苦情がきたのか」という住民の質問を否定しませんでした。問答無用の住民サービスの停止は検閲にほかなりません。

また、村議会はリニア工事の大型車両の通行の迂回ルート of 地権者に書面を持参し、JR東海と協議するように圧力をかけました。住民を代表する村議会が、地権者が提案した公害調停を拒否した事業者ではなく、一住民に苦情を言うなど前代未聞です。これが村政私物化でなくて何でしょう。

『南アルプスの未来にリニアはいらない』は、大鹿村はじめ、南アルプス周辺自治体が進めるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の理念に基づき、その活動に携わる人物を紹介するものです。村づくりに取り組む私たちの会が発行しました。多様な意見が存在し、地域のために真剣な議論がなされることは、ユネスコエコパークに登録されたこの地域の前提です。それを踏みにじっているのはリニアです。大鹿村と教育委員会は、自ら進んでこの本の販売を再開し、公共性と中立性を証明してください。

2019年10月28日 大鹿の十年先を変える会

admin (<http://akaishimonitor.jp/author/munakata/>)

★ 意見・発行物 (<http://akaishimonitor.jp/category/opinion/>)

抗議文を持っていったよ！ (<http://akaishimonitor.jp/report/>)

ああ、いやだいやだと思いながら、黙っておくこともできず、大鹿村リニア事件の抗議文をこさえて持っていった。

JR東海大鹿分室編

とりあえず、家から一番近い大鹿分室に行く。職員の長尾さんが対応。「人さまの土地に来て事業させていただいている立場でしょう。村の人がやるのがいやならよそに行け」と言って紙を手渡しす。太田垣さんに伝えておいてね、と言いおいてタッチアンドゴーで移動。

大鹿村教育委員会編

窓口で教育長の島崎さん呼び出す。

「ぼく本が撤去された6月から何回もここに顔出してますよね。なんでそのこと言わないの？」と聞くと黙ってた。

「JRの太田垣さんは自分が指摘して、教育委員会に言ったと言ってたよ。やってること見え見えなんですよ。あの人言うからああするとか、この人が言うからこうするとか、だいたい前の村長がインタビュー受けているような本でしょう。村長が変わったらはいはいとやり方変えるようなことだと困るんですよね、住民は。あなたたちプロじゃないの」

と言っとくべきことは言っておいた。

「中立とかいうんなら、本は教育委員会で販売してくださいよ。これから(あなたたちが黙ってたのと同じ)4カ月間、ここに来るたびにそのこと聞きますからね」

ちなみに、図書室に寄贈した本は捨てられずに、この日は貸し出されていたそうだ。

リニア対策室編

役場に移動してリニア対策室の岩間さん呼び出す。

宗像「太田垣さんは、リニア対策室には管轄を聞いただけで、自分が本

のことは指摘したと言っていますよ。どういうことでしょう」

岩間「どういうことと言うのはどういうことでしょう」

宗像「嘘ついているんでしょう。どういうことでしょうということはどういうことでしょう？」

岩間「私より太田垣さんのことを信じるということでしょうか？ きちんとした手続きのもとに本は置かれていたんでしょうか。いずれにしても教育委員会の管轄です」

この問題は、JR東海の太田垣氏が本の販売が気にいらぬからと村にちくった。

村のリニア対策室と教育委員会は、販売物の管理の問題として片づけようとし、JRに言われたことではないと主張している。

太田垣さんがウソを言うメリットはないが、村と教育委員会は、JRに言われて撤去を促したというのを言われるのはいいと思っていないから、それを隠すメリットがある。どっちが信頼できるのかは明らかだ。

だから本人に4カ月も知らせず放置した。「他の作家の方も置いているじゃない」と聞くと、「それは関係ない」という。日本語に翻訳すると、「あなただけがきちんとした手続きをとっていない疑いがある」(なぜならリニアを批判するから)ということになる。

自分が特定の思想信条を持つ人物を不信の目で見て「私が信じられなんでしょうか」と聞かれてもなあ。信じてもらえないようなことやってるから無理だよなあ。

それよりも何よりも、リニア対策課は、まるで風紀委員だ。リニアに異論がある住民の言動を監視し、何かやる度に手続き違反を探し出して担当課に通報する。

これはもうリニア対策課じゃないよね。リニア反対派對策課、あるいは秘密警察と呼んだほうが合ってるよ。

怖いね、大鹿村役場！

👤 admin (<http://akaishimonitor.jp/author/munakata/>)

★ モニターレポート (<http://akaishimonitor.jp/category/report/>)